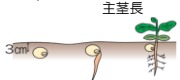
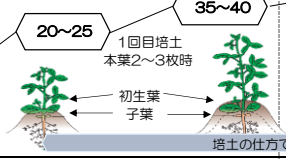


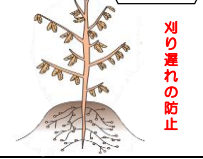


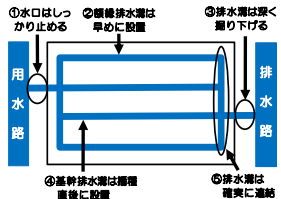
令和7年度

大豆栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

作業日程の目安	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月						
	中・下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
	排水対策(顔縁等)・土づくり				播種・発芽期			草丈・節数増加期		開花期		莢伸長期		子実肥大期		黄葉期・落葉期		収穫期	
	<重要技術対策> 1 土づくりの実施と適正な施肥 2 排水対策の徹底 3 的確な中耕培土で根域拡大 4 適正な雑草、病害虫防除				 主茎長 3cm 6~10			 開花期 7月20日頃 20~25 1回目培土 本葉2~3枚時 35~40 2回目培土 本葉4~5枚時 65 培土の仕方では収量が決まる！		 65		 ※排水対策の徹底で根粒菌増加を図る！		 成熟期 10月9日頃 刈り遅れの防止					
	排水対策	土壌改良	種子消毒	耕起	施肥	播種	除草剤	排水対策	培土	うね間かん水	防除	防除	排水対策	収穫	乾燥	調製			

排水対策



●砕土率が上がり発芽・苗立向上
●除草剤の効果向上
●根量、根粒菌の増加
●茎疫病・黒根腐病の発生抑制

土壌改良資材

収量・品質向上の為、有機物の積極的施用

資材名	施用量(10a)
発酵ケイフン	150kg
堆肥	1t

土壌pH6.0~6.5を目標に生育量を確保

資材名	施用量(10a)
苦土石灰	100kg



種子消毒

●病害虫防除の種子消毒は必ず実施する

使用薬剤
クレーザーMAXX

処理方法
原液8ml/乾燥種子1kg



耕起・施肥・播種

●低速のロータリー回転で行う
●丁寧な耕起により作土深15cm以上を確保する


肥料名	10a当たりの施用量	
	単作	麦跡
化成肥料オール14	17~22kg	30~35kg
BB基肥084	25~30kg	40~50kg

品種	粒径	播種時期	栽培本数(本/10a)		播種量(kg/10a)
			5月6半旬~6月上旬	6月中旬	
えんれいのそら	中粒	5月6半旬~6月上旬	14,000~16,000	4.2~4.8	
			16,000~18,000	4.8~5.4	
シュウレイ	中粒	5月6半旬~6月上旬	12,000~15,000	3.5~4.4	
			15,000~18,000	4.4~5.3	
オオツル	中粒	6月上旬	10,000~12,000	3.2~3.8	
			12,000~14,000	3.8~4.4	

※耕起から播種の一連の作業は圃場が乾いた状態で、1日で実施

培土

- 培土作業により根粒菌着生の増加
- 耐倒伏性、養分・水分吸収力の向上
- 溝を作ることで排水性の向上
- 中耕により雑草防除
- 培土後の溝の手直しと排水溝への連結



除草剤

時期	品名	散布量/10a	使用方法	特記	使用時期	使用回数
播種後	エコトップP乳剤	500ml +水100L	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
	エコトップP細粒剤F	4~6kg	全面土壌散布	畑地一年生雑草	播種後出芽前	1回
生育期間中	パワーガイザー液剤	200~300ml +水100L	全面散布 畦間処理	一年生雑草(アサカオ類) 発生前期~2葉期	出芽前~3葉期 収穫30日前まで	1回
	ナブ乳剤	150~200ml +水100L	全面散布	イネ科雑草3~5葉期	収穫30日前まで	1回
	ホルトフロアブル	200~300ml +水50~100L	全面散布	イネ科雑草3~10葉期	収穫30日前まで	1回
	大豆ハサグラン液剤	100~150ml +水100L	全面散布	イネ科を除く一年生雑草	大豆2葉期~開花期	1回
		300~500ml +水100L	畦間処理			
	バスタ液剤	300~500ml +水100~150L	畦間処理	雑草生育期	収穫28日前まで	3回以内

病害虫防除


体系	農薬名	散布量/10a	対象病害虫	散布時期(収穫前日数)	総使用回数	
基本防除	粉剤	トライトレボン粉剤DL	紫斑病 フタスジヒメハムシ カメムシ類	1回目 8月上旬(14日前まで)	2回以内	
				2回目 8月中旬(14日前まで)		
	液剤	①スタークル液剤10	空散布量 800ml ① 100ml(8倍) +② 33ml(24倍) +水677ml	カメムシ類	1回目 8月上旬(7日前まで)	2回以内
		②ブランドム乳剤	空散布量 800ml ③ 100ml(8倍) +④ 100ml(8倍) +水600ml	紫斑病	2回目 8月下旬(14日前まで)	
臨時防除	粉剤	マラソン粉剤3	アブラムシ ハダニ類	発生始期(7日前まで)	3回以内	

うね間かん水

●開花期頃~9月上旬頃までは晴天が3日以上続くと見込まれる場合はうね間かん水を行う
●圃場の全体に水が行き届いたら水口を止め速やかに排水を行う

かん水の効果

- 根粒の活性化
- 青立ちの発生防止
- 収量や品質の向上



収穫・乾燥・調製

- 青立ち株や大きな雑草は、事前に抜き取っておく
- 露がなくなってから刈取りを行う
- 刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を巻き込まない

<刈取適期の目安>



褐色葉90%以上(子実水分22%)
莢色が、緑~黄色でも、莢色が褐色なら適期